

株式会社アイワ工芸 [製造業(その他製品)]

所在地 | 〒453-0845 名古屋市守山区宮塚町183番地 WEB | <https://www.sign-aiwa.com/>
TEL | 052-411-6035 FAX | 052-412-1617



よい看板をつけるとよい客が来る

株式会社アイワ工芸は、1968年創業の歴史ある看板製作会社で、屋内・屋外の看板製作の他に、展示会での会場・イベントブース設営、木工製作、イベント看板なども手がけています。長年のノウハウを活かした戦略的な看板&外観リノベーションによって、クライアントの売上アップにつながる看板作りを強みとしています。クライアントごとに商圈分析や実地調査を徹底的に行い、顧客の行動プロセスを分析し、段階ごとにふさわしい「情報」を看板に込め、店舗誘導効果を高めます。単なる表札としての看板ではなく、営業マン以上の働きをする戦略的看板の提案が目標です。



取組内容

環境配慮プログラムを新たな強みへ 再生材を用いた商品・サービスの開発

当社はこれまでに「従来の看板屋を超えた看板製作」をキーワードに、当社の強みである手書き職人の技を生かした「外観リノベーション」での新たな開発に取り組んできました。開発を進める中で、近年、環境配慮やSDGsといった社会貢献を意識した顧客が増加していると感じ、新たな切り口の商品開発に取り組みたいと思い応募しました。本事業では、これまで行ってきた看板製作作業の工程を洗い出し、環境配慮につながる要素を見つけ出す作業から始め、リユースにつながる素材、廃棄量やエネルギー削減などについて検討し、ひとつのビジネスモデルを構築しました。特に、塩ビ板等のリユース素材については、メーカーの情報からCO₂排出量をピックアップするなどし、環境負荷低減への効果をまとめ、環境配慮プログラムとして新たな強みを持つ商品開発を行うことができました。

本事業を終えて

自分たちにとって当たり前の作業にこそ、 CO₂排出削減につながる要素が あったことに気が付かされた

当社は50年以上に渡り、看板作りのノウハウを積み上げてきました。今回、外部専門家の新たな視点での製作作業工程の見直しにより、そのノウハウには、自分たちにとって当たり前の作業にこそ、CO₂排出削減につながる要素があったことに気が付かされました。また、看板の洗浄やシート剥がし等、手間のかかる工程が、実は「環境配慮」や「低炭素社会への貢献」という意味のある工程であったことを見い出せ、新たなやりがいや当社の強みを打ち出すことにつながり、励みとなりました。今後は、このような価値を効果的に活用いただけるよう商品PRを行い、当社のみならず、クライアントのSDGs活動にも貢献できる戦略的な看板製作を提案し続ける企業でありたいと考えています。

有限会社柏彌紙店 [卸売業]

所在地 | 〒460-0016 名古屋市中区橋一丁目4番地6号 WEB | <https://kashiwaya.co.jp>
TEL | 052-331-8681 FAX | 052-331-8891



和を通して、日々の生活に彩りを

有限会社柏彌紙店は、1824年より続く歴史と経験から、和紙を中心とする内装材料を使い、日々の生活の中で豊かさを感じ、彩りある空間作りをします。日本の住空間において、和紙にできることはとてつもなく多いと考えます。和紙は時代を超え、何度でも甦り、経年変化すら風合いに変えます。日本古来のこのすばらしい素材を武器に、お客様の抱える課題を解決します。1300年の歴史を持つ和紙文化を、この時代で途絶えさせないように、この先も広がり、続いていくことを願って、発信していきます。



取組内容

独自のネットワークでリユース素材を安定供給 SDGsにつなげる和紙着火剤の開発

製造過程でエネルギー消費の低い手漉き和紙は、低炭素社会にフィットする素材でありながら、原料のコウゾを栽培する農家や表具師等の高齢化という現状を踏まえると、その素材自体や活用方法の先行きが懸念されます。そこで、若い世代にその魅力を伝え、生活に取り入れてもらうきっかけをさまざまな場面で作り、活性化を図る必要があると感じ、新たな方法で商品開発ができないものかと思い参加しました。本事業では、当社の強みである表具師などの和紙加工を専門とする職人のネットワークを活用し、リユース素材の安定した供給ラインの形成からはじめました。趣味趣向の強いニッチニーズに向けた障子紙や襖紙といった和紙の端材を再利用した着火剤の商品開発を行うことで、特化した層へのブランド訴求を意識した開発につなげることができました。また、PRはSNS等のデジタルメディアを軸に、若年層との接点の創出を目指しました。

本事業を終えて

それぞれの立場で事業を継続できる 仕組みづくりをプロデュースする 牽引企業としての重要性と意義を感じた

これまでに当社は、和紙という素材を生産農家から加工を行う職人、住宅メーカーへとつなぎ、顧客の難しい困りごとにも対応できるよう日々研鑽を積んできました。しかしながら、和紙に対する需要は減退の一途を辿っています。そういった課題を踏まえ、本事業を通じサーキュラーエコノミーにつながる新たな取り組みを行うことで、一卸売としてだけでなく、当地域の和紙生産者や表具師などの職人がしっかりと後継者を育成できるよう、業界全体を俯瞰し、それぞれの立場で事業を継続できる仕組みづくりをプロデュースする牽引企業として、自社事業の重要性と意義を感じました。その上で、和紙は消費者へ環境負荷の少ない素材であることをしっかりアピールし、低炭素社会の生活にマッチした道具を開発することで需要を喚起し、和の文化を次世代へ繋げていきたいと考えています。

株式会社ファースト [製造業(その他製品)]

所在地 | 〒468-0015 名古屋市天白区原一丁目815番地 WEB | <http://www.first-sp.com>
TEL | 052-803-6131 FAX | 052-802-7131



デザインのいい街で暮らしたい

暮らしに、産業に、サイン・ディスプレイは、街中でさまざまな役割を担っています。株式会社ファーストは、サイン・ディスプレイ・デジタルサイネージを活用し、人々の生活にゆとりや潤いを与え、「デザインのいい街づくり」に貢献するメーカーとして、多品種・小ロットによる商品ラインナップでお客様の多様なニーズに対応するとともに、過剰在庫・供給を避け、無駄の削減に努めた独自の仕組みで生産しています。また、ライフスタイルが多様化する現在、高品質・洗練されたデザインによる商品開発を推進するだけでなく、環境負荷低減活動を通じ、社会課題の解決にもつながるものづくりで、街に便利で豊かな製品を増やしていきたいと考えています。



取組内容

石油由来の部材から自然由来の部材へ 新素材を活用したディスプレイ商品の開発

当社は、これまで多品種・小ロットなものづくりで多様な顧客ニーズに対応してきました。しかし、社会の変化により、より多様な顧客ニーズに応えることが必要になってきていると感じています。そのため、当社としても新しい取り組みにつなげるきっかけとして本事業に参加しました。本事業では、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーについて見識を深めつつ、これまで培った当社の強みを活かしながら、石油由来の部材から自然由来の部材への切り替えや新素材の活用について、プロトタイプング手法による検討を行いました。しかしリサイクル素材や自然素材を活用したサイン・ディスプレイの開発は、商品として視認性を満たす事ができず、商品化を見据える上での難しさを改めて感じました。

本事業を終えて

商品コンセプトと商品の持つ仕組み、 商品そのものの視認性を合致させることの 重要性を痛感

当社は、サイン・ディスプレイやデジタルサイネージ分野において、生産効率と視認性を重視した商品開発で企業価値を高めてきた企業です。これまでにさまざまなデザイン性のある商品開発に挑戦してきましたが、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミー、SDGsといった環境への取り組みを推進するための商品開発は、従来の考え方では、商品化が難しいと感じました。中でも、本事業で行ったプロトタイプングを通じ、商品コンセプトと商品の持つ仕組み、商品そのものの視認性を合致させることの重要性を痛感しました。難しいテーマではありますが、今後も継続的に商品開発に取り組み、低炭素社会の実現につながるものづくりで、顧客ニーズにマッチする豊かな製品を提供していきたいと考えています。

有限会社みずのかぐ [小売業]

所在地 | 〒463-0067 名古屋市守山区守山一丁目1番地18号 WEB | <http://www.mizuno-kagu.jp>
TEL | 052-795-1101 FAX | 052-795-1102



家具で人を、シアワセにする。

有限会社みずのかぐは、「人と人がつながる場所」をコンセプトに、オリジナルのオーダー家具をご提案するショールーム・ショップ「CONNECT(コネクト)」を運営するとともに、北欧デザインの輸入家具ブランドや、プロの収納技術によるオリジナル別注造作家具など、さまざまなブランドを展開しています。また、デスクに使用される杉材が育った上流の山を親子で体験するツアー付きデスクの販売を通じて「上流の山」と「下流の街」の人と人をつなぐプロジェクトを行っており、木材の需要喚起にも努めています。



取組内容

低炭素化社会の実現をテーマに製造した、木製キャンピングトレーラーのPRツールの開発

生活環境が変化し、家具へのニーズも大きく激しく変化する中、低炭素化社会の実現という社会課題をテーマに、木製のキャンピングトレーラーを製造するといった、家具の領域を飛び越えたプロジェクトに取り組むため、本事業に参加しました。家具しか販売したことのない当社にとって、どこから手を付けるか悩みながら、専門家との打ち合わせをスタートしました。本事業では、商品自体のPRや木のカーボンニュートラルに適した素材といった機能性のみに着目するのではなく、生活シーンの中から「こんなことに使えないか」「こんな生活が楽しいのではないか」といった暮らしについて考えるところから始め、専門家のアドバイスのもと、媒体を選別し、山や海などとの自然とのふれあいや木のぬくもりが伝わるようなニッチニーズを満たすSNS向けの動画の制作を行いました。

本事業を終えて

資源を大切にしたものづくりを行いながら、地域の自然保護や環境配慮に貢献していきたい

今や家具の販売も、店舗だけではなく、インターネット通販など、新しい形態に変化しています。そういった中で、PRの仕方も様々な変化をしており、SNSや動画など新しい媒体に合わせ、私たちも対応していかなくてはなりません。開発商品に対し、仕様や機能といった考え方だけでなく、ユーザーエクスペリエンスとそれを表現する効果的な見せ方の知識など、ユーザー層へのアプローチの仕方について、改めて勉強し直す機会となりました。今後は、開発商品の販売を通じ、山の大切さ、木のぬくもりの良さを伝えながらプロジェクトの目的である「上流の山」と「下流の街」の人と人をつなぐことを広げるとともに、資源を大切にしたものづくりを行い、地域の自然保護や環境配慮に貢献していきたいと考えています。